

R. O. 英語英文学科・3 年次

I. 留学レポート

① 協定留学を目指した理由

入学当初は留学を考えていませんでしたが、時間のある大学生の間だからこそできることをたくさん経験してみたいと思い、その一つとして1年生後半ごろから留学をしてみようと考え始めました。また、カナダには旅行で行ったことがあり、場所も人もとても気に入りに、留学をするならカナダに行って、もっとカナダについて知りたいなと思っていました。

② 留学を目指してから出願までの英語学習方法

出願をするために私は IELTS のスコアが必要だったので、学校で行われた IELTS 講座や、TOEFL Camp に参加しました。独学で勉強しても限界があると思ったので、このような勉強会を通してスコアを取る方法などをしっかり教えてもらおうと思いました。私の場合、目標のスコアを取ることができたのは、TOEFL Camp に参加したことが大きいと思います。5日間集中して IELTS の勉強ができ、参加者全員のモチベーションも高く、励みとなりました。その後受けた試験でスコアを取ることができ、本当に嬉しかったです。短い期間ではありましたが、その間に得たものは大きかったと実感しています。

③ 留学決定から出発までの準備期間

留学決定後は、書類を提出したりとすることがたくさんありとても忙しかったです。出発までに英語の勉強をしっかりしたいと思っていましたが、時間もあまりなく日常会話に必要なことなどを勉強するぐらいでした。ビザ申請は自分で行いました。代行でやってもらおうか悩みましたが、自分でやることはこれからの留学で大切になってくると思い、自分で手続きをしました。インターネットで全て申請でき、約1週間でビザがおりました。しかし、語学学校の分しかおらず、大学までカバーできていなかったため、ビザ申請所にメールや電話をして出発の約5日前に留学期間全てをカバーしたものが再発行されました。カナダ入国の時にビザの延長の旨を伝えなければならないかもしれないとひやひやしていましたが、無事出国前におりて安心しました。申請手順は日本語で載っているサイトもありそれを活用しました。それでも分からないことは国際課の方に相談したりしていました。

④ 現地到着後

到着後は、現地のサポートオフィスの方が空港からホームステイ先まで車で送って下さいました。オリエンテーションでは、公共交通機関の乗り方や携帯電話、口座開設についてなどいろいろと教えて下さいました。携帯電話を契約しようか迷いましたが、Wi-Fi 環境が整っており、電話をする機会もほとんどなかったので契約はしませんでした。Wi-Fi だけで特に困ったこともなく日本から持ってきた携帯を使用していました。

⑤ 語学研修期間

◆ **語学研修先の施設・環境について**

語学学校はトロントの中心地にあり、周りは高層ビルが立ち並んでいました。駅から歩いて5分ほどで着き、立地が良かったです。ビルの6、7階が語学学校で、1階にはカナダではとても有名な Tim Hortons というコーヒーショップがあり、よく行っていました。夏前になると学生が急激に増加し、教室が足りなくなってしまうため、2週間ほどホテルの部屋を借りて授業をしていました。

◆ **授業内容、課題、試験**

最初の2か月は Intensive English という文法や会話中心のコースを受けていました。人によって発音が聞き取りづらかったり、話すスピードが速くてついていけなかったりと大変でしたが、様々な国の人たちと友達になれ、とても楽しく学ぶことができました。このコースの間は、毎週1回、前の週の振り返りテストを行い、課題はそこまで多くありませんでした。後半2か月は UFC という大学準備コースで勉強をしました。エッセイの書き方、プレゼンの仕方などを中心に学びました。クラスメイトは私を含め全員女子で7人（ブラジル、韓国、日本）いました。大学準備なので、読む量も書く量も一気に増え、プレゼンテーションは週に最低1回ありました。その場で20分ほど考えて発表する時もあり、最初は何を言えば良いか分からず苦労しましたが、回数をこなしていくうちにだんだん構成が頭の中に浮かんできて、土壇場でもどうにか発表をする力がついたと思います。UFC ではプレゼンテーションをする機会が本当に多く、普段は10分間、最後は20分間のプレゼンテーションを行いました。試験は中間・期末と2回あり、エッセイを書く試験でした。また、成績を85%以上取らなければ大学に行くことができなかつたので、いい成績を取れるように必死で勉強をしました。本当に大変なコースでしたが、先生クラスメイトともに良い人たちばかりで、このメンバーだったからこそ乗り越えることができたなと感じています。

⑥ **正規科目履修期間**

◆ **大学の施設・環境について**

授業が行われる建物を挟むように寮が建てられており、寮から徒歩5分圏内でどの施設にも行くことができ、とてもこじんまりしています。敷地がそんなに広くないので移動には苦労しませんでした。また大学内は Wi-Fi が完備されており、繋がりもとても良かったです。冬になるととても寒くなるので、室内は暖房が張り巡らされており、快適な状態で授業を受けることができました。大学周辺は本当に田舎だなと感じさせられるほどお店も少なく、スーパーや薬局など必要最低限のお店しかありませんでした。その分大きな公園があり、自然を身近に感じることができました。たまにミールホールではなくダウンタウンにあるレストランで食事をしていました。ミールホールの食事は種類が豊富ですが、だんだん飽きてきてしまい、外食は1つの楽しみでもありました。

◆ 履修科目

最初は帰国後の単位数なども考慮して 4 科目履修をしようと思っていたのですが、初回の授業を受けて 1 つ 1 つの授業が予想していたよりも大変だと感じ、3 科目に減らして着実に勉強することにしました。結果的には 3 科目にして良かったです。

• SOCI 1001 Introduction to Sociology

学科問わず授業を取れるので、学んだことのない社会学を取ってみようと思いました。文化や経済など様々なトピックを通してカナダ社会について勉強していきます。

• MUSC 2001 Introduction to Music

音楽は幼いころから親しみがあり、授業内容も面白そうだったので取りました。時代ごとに実際に曲を聴きながらその時代の特徴や歴史的背景などを学びます。

• LING 2001 Introduction to the Study of Language

留学前から言語学には興味があり、絶対に履修したいと思っていた科目でした。言葉の起源や人が言語習得をするまでの過程など、言語について様々な角度から幅広く学んでいきます。

◆ 授業、レポート、定期試験

• SOCI 1001 Introduction to Sociology

授業は週 2 回 80 分で、そのうち 1 回は大教室での講義型の授業を行い、もう 1 回はラボとって 30 人程度のクラスに分け、ディスカッションをしました。毎回お題があり、それについて 2、3 人で話し合った後全体で意見をシェアするという授業の形でした。みんなしっかり意見を持っていてどんどん発言するので、ついていくのに苦労しました。また、ラボがある日はレポート提出がありました。試験は全部で 3 回あり、そのうち 2 回は選択問題形式、1 回は記述式の試験でした。期末試験はなく、その代わりにエッセイがありました。文献を使用して書かなければならなかったのが、エッセイのひな型を作ることにかなり時間がかかりました。また、カナダでは盗用をすると厳しく罰せられるため、文献をそのまま使っていないか何度も確認しました。教授もこれについて何度も言っていて、本当に気を付けなければいけないことだと感じました。

• MUSC 2001 Introduction to Music

週 3 回 50 分授業でした。40 人規模のクラスで、様々な音楽に触れることができました。授業は、時代ごとにたくさんの曲を聴き、後半は実際にプロの楽器奏者の方が来て下さり、生演奏を聴くことができました。課題は毎週曲を聴き、気づいたことなどを A4 用紙 1 枚にまとめるというものでした。また、演奏会を聴きに行つてレポートを作成する課題もありました。試験はミニテストが 3 回、中間期末がそれぞれ 1 回ありました。内容は曲名や作曲者を書く問題や、試験中に音楽を聴いて、指定された観点から曲について記述するというものでした。しっかり準備をすれば解ける問題でした。

・ LING 2001 Introduction to the Study of Language

週 2 回 80 分授業でした。この授業は本当に楽しかったです。教授が事前に授業内容をまとめたノートインターネットにアップしてくれていたため、毎回それを印刷して授業で使用していました。全部メモを取ることはかなり困難だったので、ノートのおかげで内容を聞き取ることに集中できました。授業は、パワーポイントを中心に練習問題を交えながら行われました。近くの人たちとトピックについて話し合うこともあり、英語の成り立ちや要素など細かく学び、日本語とは全く違い興味深かったです。授業前に教科書を読んできると日ごろの課題はありませんでした。試験は中間が 2 回、期末が 1 回ありました。選択問題と記述問題が混ざった試験で、内容をちゃんと理解していないと解くのは難しい問題でした。また最後に Autobiography という授業で学んだことを自分の今までの語学学習に結び付けてエッセイを書く課題がありました。自分の経験を中心に書くためとても書きやすかったです。

⑦ クラブ、課外活動、ボランティア活動

クラブには所属していませんでしたが、メンターシッププログラムというものに参加し、メンターと呼ばれる授業や試験のことなど大学生活をサポートしてくれる方に助けられていました。

⑧ 現地での住まい (語学研修期間、正規科目履修期間) について

◆ 語学研修期間

トロントではホームステイをしていました。ホストマザーがイタリア系カナダ人、ホストファザーはベネズエラ系カナダ人でした。私のステイしたホストはベテランで 10 年以上留学生を受け入れているところでした。また、ルームメイトも 1 人いて日本人でした。たまたまルームメイトも語学学校終了後 MTA に行く留学生でした。ベースメントが留学生用のスペースで、2 階がホストファミリーのスペースと分かれていました。食事に関しては、朝食はパンなど自分で準備をして食べ、平日の昼食はホストマザーがお弁当を作ってくれました。夕食は好きな時間に各々で食べるという感じでした。イタリア系カナダ人ということもあり、パスタやトマト料理が多かったです。しかし、ホストマザーは料理をすることが趣味だったのでどの料理もとてもおいしく、毎日ご飯が楽しみでした。またよくケーキも焼いてくれていつもおかしとして食べていました。洗濯はしてほしい時に部屋の前に置いておくとホストマザーがやってくれました。特に厳しいルールはなく、電気とお湯の無駄遣いだけはしないように初日に言われました。また、慣れているからなのかあまり干渉されず、キッチンやリビングで会ったら少し話すという程度で交流が少なかったことが残念でした。語学学校まではストリートカーと電車を乗り継いで約 1 時間かかりました。

◆ 正規科目履修期間

寮は第 3 希望まで選ぶことができ、私は Harper という寮に住んでいました。第 1 希望の寮

にはなれませんでした。この寮になってとても良かったです。Harper はとても大きな寮だったので 200 人ほどいました。この寮の一番の利点は、寮からミールホールまで廊下で繋がっており、外に出る必要がなかったことです。冬は気温が常に氷点下で外に出ることが億劫になるのでとても便利でした。部屋は広く机がとても長かったです。そのため教科書やパソコンなど思いっきり広げることができました。しかし、配線上電気が端っこに設置されており、蛍光灯ではなかったのでも暗かったです。これでは勉強に支障が出ると思い、ホームセンターでスタンドライトを買いました。電気の暗さにはみんないつも文句を言っていました。トイレシャワーは 1 フロアで共用でした。私の寮は Quiet hour という～時からは静かにしなければいけないというルールあり、平日は静かですが、Quiet hour が夜中 2 時からになる金曜日の夜から土曜日の夜にかけては音楽が大音量でかかっていたりしてうるさかったです。カナダ人は平日勉強に集中し、土日はパーティーをしてストレスを発散するのだと思いました。日本ではなかなかないことなので最初はびっくりしましたが、これはカナダでは普通のことだと割り切り、うるさくてもあまり気にしていませんでした。

⑨ 長期休暇の過ごし方

8 月はまるまる 1 か月休みでした。日本から友人たちが遊びに来てくれ、長期休暇中はほとんど友人たちと過ごしました。前半はずっとトロントを観光しました。この時点ですでに 4 か月滞在していましたが、行ったことないところがたくさんあり新鮮でした。語学学校に通っていた時もよく外出をしていましたが、同じ場所に行くことが多く、観光名所になかなか行くことがなかったので休暇中にさらにトロントの良いところを発見でき充実していました。後半は、ナイアガラの滝やニューヨークへ旅行に行きました。トロントとニューヨークはとても近く、飛行機で 1 時間半ほどです。日本にいるときはテレビでしか見たことのなかった場所がこんなに気軽に行くことができ、トロント滞在中は 2 回行きました。自由の女神やブルックリンブリッジなど有名どころをたくさん周り、とても充実した旅となりました。また、帰りは夜行バスを利用してトロントに戻り、12 時間ほど乗っていましたが、思っていたよりしんどくなくお金も節約でき一石二鳥でした。期末試験終了後は長めのトランジットを利用してトロントで 1 泊しました。しかし天候が悪く飛行機が大幅に遅れ、行きたかったところが行けなくなり予定がバタバタになってしまいました。冬のカナダをなめてはいけないと身をもって感じましたが、これもいい思い出の一つとなりました。

④ 留学期間中の就職活動の取り組み

授業がとても大変だったので特に就職活動に向けて準備はしませんでした。しかし、留学前に先輩から聞いていた 11 月にボストンで行われるキャリアフォーラムには参加しました。日系企業が約 200 社来ており、様々な会社の説明会等に参加して将来どのような職

に就きたいのか考えるきっかけとなりました。

Ⅱ. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

留学前はホームシックになるのではないかなど不安なことがたくさんありましたが、いざ始まると毎日が新鮮でそんな心配も吹き飛ばすほど楽しいことばかりでした。一番良かったと思うことは、本当に様々な国の人たちと交流できたことです。特にトロントにいた時は、語学学校でできた友達とご飯を食べに行ったりおしゃべりをしたりする機会が多く、日本にいたらこのような経験はあまりできないだろうなと感じました。また、自分とは違う国籍やバックグラウンドを持っている人たちがたくさんいる環境で過ごせたことも本当に貴重な体験になりました。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

自分の言いたいことがうまく言えないときは辛かったです。トロントにいるときは留学生も多く、自分と同じ立場の人たちがいたので話しやすかったのですが、MTAに移動してからは、ほとんどがカナダ人で留学生もそこまで多くなく、会話に参加するのでさえ大変でした。話すスピードも速かったので、聞き取るのに必死でただ聞くだけということが多々ありました。このような場面に遭遇した時は、すでに半年カナダにいるのに何でうまく話せないのだろうと悩みました。また、大学の授業が始まってからは、reading量が多く、専門用語もたくさんあり内容を理解するのにとても時間がかかりました。課題も余裕を持って始めてもぎりぎりになってしまい大変なことが多かったです。そのため図書館に夜遅くまでいることが多かったです。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

カナダに来て一番驚いたことは気さくな人たちばかりだということです。電車に乗っているときや歩いているときに知らない人にあいさつされたり、乗客とバスの運転手が雑談をして楽しんでいたり、公共交通機関では静かにするという日本とは全く違いました。その反面、突然電車内で喧嘩や言い争いが始まることもありました。誰にでも笑顔で話しかけるという文化はとても良いなと思いました。また、ホームレスの数が多かったことも驚きました。語学学校の入り口前にもよくホームレスがいて、お金を下さいという看板を立ててお金や物をもらっていました。中心街だったこともあり、少し歩くだけでも何人も目撃しました。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

良かった点は、サポートが手厚かったことです。相談をしに行くと丁寧に対応してくれました。また、メールでも質問することができ、すぐに返事が返ってくるので大変助かりま

した。悪かった点は、田舎にある大学なので地元の学生が多く、すでにコミュニティーができてしまっている点で、その中に入っていくことが難しかったです。そのため、トロントにいた時より友人を作ることが大変でした。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

ノートパソコンは必須です。語学学校、大学共に共用のパソコンは置いてありますが、数が限られ、日本語のタイピングができないので、自分のものを持って行くことをおすすめします。日用品はカナダで買うことができるのでわざわざ日本から持ってくる必要はありません。しかし、化粧品は使い慣れているものが良かったので、日本から持参しました。また、日本食はあるといいです。特に大学に移動してからは、日本食を買うことのできるお店はほとんどなく、ミールホールのご飯も飽きてくるので、そういう時に日本食があると便利です。そのため、2回ほど日本から送ってもらいました。クレジットカードも持って行くといいと思います。カナダはカード社会なのでどこでもカードが使えます。買い物をする時はほとんどカードで支払っていました。あと、フォーマル衣装を着る機会がMTAでは何度かあるので、少しおしゃれなワンピースなど持参したほうがいいです。現地でも買えますが、サイズが合わなかったりすることもあります。

③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

スピーキング、リスニング力は特に向上したなと思います。今まで頭で言いたいことを考えて組み立ててから話していましたが、日常会話ならパッと考えずに言えるようになりました。ペラペラにはなれていませんが、英語で話すことを少し避けてきていた時に比べると格段に成長したなと思います。リスニング力に関しては、相手の言っていることはほとんど聞き取ることができるようになりました。映画を観るときも音声は英語でも日本語字幕で観ていましたが、字幕なしで理解できる映画が増えてきました。また、今まで英語で書かれたホームページなどは量も多く読むことに抵抗がありましたが、留学中は旅行に行くにしても英語で予約することになるので、嫌でも読む機会が増え、量の多い英語を読むことに対する抵抗がなくなりました。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

留学前は一人暮らしもしたことなく、ましてや一人で海外に行ったこともなかったので、10か月も違う国で本当に生活できるのかと思っていましたが、意外とすぐに慣れてきます。留学に行くか少しでも迷っている方は行くべきです。せっかく時間があるこの時期にちょっとしたことで行くことを断念してしまうとこの先後悔する時が来ると思います。私も優柔不断でスコアが取れてもぎりぎりまで出願するか本当に悩みましたが、結果的に行くことと決断し留学を通して様々な面で成長できました。楽しいことだけではなく大変なことの方が正直多いですが、カナダで経験できたことはこれからの自分にとって有益なことばかりです。留学に行きたいと思っている方は諦めずに目標に向かって頑張ってください。

IV. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

留学生活を通して得たことを生かしていきたいです。これから就職活動が始まりますが、英語を使える仕事に就けたらいいなと思っています。仕事に限らず、常に英語が身近にあるという状態を継続していきたいです。

V. 写真



語学学校の UFC メンバーです！

Graduation の日に先生がタキシードで現れてみんなびっくりしていました。



MTA へ来ている留學生が集まってパンケーキ会を開催しました！たくさん話をしとても楽しいひと時でした！



同じ寮の友人たちと Holiday Banquet 前に寮前で撮ったものです。みんなには本当にお世話になりました！

H. T. 英語英文学科・3年次

I. 留学レポート

① 協定留学を目指した理由

もともと英語に興味があり英語英文学科に入学し、いつか留学して英語が話せるようになりたいと入学当初から漠然と考えていました。けれど、具体的なイメージはなく、実際には自分には縁のないものだと考えていました。なので、留学に向けて始めから準備していたわけではありませんでした。留学を現実のものとして意識するようになったきっかけは、2年生になって AES コースに所属したことでした。AES コースでは、ネイティブの先生方のもとの英語での授業を受けることができ、その環境は海外の教育機関で学んでいるかのようでした。今まで英会話教室などに通ったことはありましたが、それは「英語を学ぶ」ためのものであって、AES コースで経験できた「英語で学ぶ」というものとは違っていたので、このコースでこういった特別な経験ができて本当に良かったなと感じています。半年間の AES コースでの経験を経て、もっと英語に触れたい、自分の英語能力を高めたいと考えようになったからです。留学に行かずとも、自分を英語に囲まれた環境に置き、学ぶことは十分可能なことだと思いますが、2年生の夏、就職活動までにできるだけ効率よく、また最大限に力を伸ばせる環境に身を置きたいと考えたので、協定留学に応募することを決めました。応募することを決めた時期が出願締め切り間際だったので、すぐに TOEFL-iBT を受験し、ぎりぎりまで提出したことを覚えています。

② 留学を目指してから出願までの英語学習方法

①で記述させて頂いたように、私が留学したいと決意したのが協定留学の締め切り間際であったため、協定留学に向けて特別な勉強をしたということはありませんでした。それでも留学したいと思ったときに必要なスコアが手元にあったのは、英語英文学科のカリキュラムのおかげだと強く感じています。定期的に TOEIC や TOEFL を受験する機会があり、また、コンスタントに一定量の課題を課される環境、少人数制でのクラス編成のため先生方との距離が近く、他大学と違って学ぶことに対して常に意識を保つことが出来たことが、私の英語学習に自然とリズムをつけてくれました。スピーキング、ライティング、リスニングと英語学習の三大要素すべてにほぼ毎週授業課題があったため、これをこなしていく過程で自然と英語力がついたように思います。実際に、1年生で初めて受験した TOEIC テストスコアから2年生で受験した2回目の TOEIC テストスコアでは、150点ほどアップさせることができました。そのほかに自主学習を特記するとすれば、知り合いのネイティブの英語教師の方と定期的にスカイプで英会話レッスンをして頂いたり、YouTube で英語のコンテンツを見てリスニングの練習としたり、国際交流のサークルに所属し留学生とつながりをもつことで、異文化理解の機会を持つように心掛けたということだと思います。しか

し、これらは自分にとってはあくまでもモチベーションを保つためのものであり、実際に英語能力を高めてくれたものは、大学での授業や課題であると思います。

③ 留学決定から出発までの準備期間

留学決定から出発までは、テスト期間でもビザや航空券の手配を進めていかなければならなかったのですが、思ったよりも時間が無くとてもバタバタしました。ビザの申請は時差のあるなかでの手続きなのでとても時間がかかりますし、申請が上手く通らない場合などもあるので、もっと早く進めておけばよかったと後々後悔しました。ビザがおりないと航空券も取りづらく、出発日に近づいていくにつれて価格も上がって行ってしまったからです。語学勉強に関しては、特別なことはせずに、今までしてきた勉強をより丁寧にこなしました。具体的には、大学での課題（英文科なので）、英語音声で映画を見る、単語、TED トークなどです。あとは、3 年生での留学だったので、少しずつ就活に関する情報に目を通したり、会いたい友達全員に会ったりして気分転換もしていました。また、私のプログラムでは夏の 1 か月間住むところがなかったので、その期間たくさん旅行に行こうと思い、アルバイトもたくさんして旅行資金も貯めていました。

④ 現地到着後

到着後は、現地に高校時代の友人が数人いたので、空港まで迎えにきてもらいました。トロントピアソン空港からは TTC (地下鉄) までのバスが出ているので、バスで駅まで向かい、そこから地下鉄で最寄りの駅まで行きました。ホストファミリーの家まではエージェンシーの方が車で前まで送ってくださったので、何も心配せずに到着することが出来ました。

(大体 1 時間くらい) それからエージェンシーの事務所で周辺情報や語学学校について、銀行やその他必要なことをすべて説明して頂きました。わからないことがあればエージェンシーの方にメールを送ると、すぐに返信を下さったので、手続きなどで困ったことはありませんでした。大体の方は金曜か土曜に現地に到着し、月曜から授業というかたちになると思うのですが、私は土日にダウンタウンなどを見て回ったり、ホストファミリーに車で周辺を案内して頂いたりして、周辺の地理を把握することが出来たので、初日の登校もスムーズに行うことができました。バスで駅まで向かうときには切符のようなものをあらかじめ持っていないと乗車しにくいので、空港から最寄りに向かうときにトークンを余分に買って置いて、それを使って定期券を買いに行きました。

⑤ 語学研修期間

◆語学研修先の施設・環境について

2017 年 1 月にカプラントロント校がリニューアルし別の場所に移転したため、この情報は現在とは異なっていると思いますが、私の通っていたカプラントロント校は高層ビルの中の 2 フロアに入っていました。ラウンジとパソコンルーム、授業が行われる教室が各階にあります。ラウンジには電子レンジや浄水器などが設置されており、ランチを温めた

り水を汲んだりすることが出来るので、大半の生徒は自分のボトルを持ってきて利用していました。中には自販機、またビルの 1 階にはティムホートンがあるので食べ物や飲み物を買うことができます。

◆授業内容、課題、試験

私が受講した UFC コースも、現在は全く異なっていると友人から聞いたのですが、私の時は 2 か月間は一般のコース、残りの 2 か月間は UFC コースを受講しました。はじめの 2 か月間は楽しく学べる和気あいあいとした授業で課題も少なく、友人を作って環境になれるのに適した時期でした。対して後半 2 か月間の課題は比にならないほど増え、授業も大学に合わせて本格的になり、とてもやりがいのあるコースでした。毎週エッセイやプレゼンの課題があり、勉強に割く時間が圧倒的に増えました。この時期からは友人と遊ぶ時間と勉強する時間を計画的に確保していました。

⑥ 正規科目履修期間

◆大学の施設・環境について

大学はトロントから飛行機で 3 時間ほどのニューブランズウィック州サックビルにあり、全く違う環境の中にありました。大学の周りにはピザ屋さん、スーパー、ドラッグストア、コリアンレストラン、バーなどが徒歩 10 分圏内にあります。ショッピングモールのようなところには予約式のバスをとれば 30 分ほどで行くことができますが、往復で 30 ドルほどかかります。トロントに比べると本当に何もなくて感じてしまいましたが、周りが静かだったおかげで大学の勉強に集中できたので今思えばよかったなと思います。大学には寮、ジム、購買、カフェ、バー、食堂などなんでも揃っていたため、普段はほぼ大学の敷地から出ることなく過ごすことができました。

◆履修科目

・ Introduction to Sociology

自分が今まで日本の大学で勉強したことがなく、興味のある科目を履修したいと思っていたので、出発前から見ていた科目でした。授業にはスライドとそれに沿った教科書が使われるのですが、スライドをすべて先生がインターネット上にアップロードして下さるので勉強しやすいかなと思い決定しました。社会学全体のトピックを少しずつ全て追っていく授業で、中間テスト 3 回、ショートエッセイとそれを基にしたディスカッションが毎週、期末レポートがありました。

・ Introduction to Music

音楽史を中心とした授業で、気分転換になる授業を 1 つ取りたいと考えていたので履修しました。先生が様々な映像や音楽を流して下さったり、実際に演奏家の方がきて演奏して下さったりしたので楽しみながら受講することができました。授業内でのディスカッション、毎週のレポート、小テストが不定期にあり、中間・期末テストが 1 回ずつありました。

・ Contemporary Canada

一番苦労した授業でした。大まかな知識はあらかじめ持っているという前提で授業が進んでいきます。毎週 2、3 個の論文を読み、それについてのエッセイを書いてディスカッションを行います。このディスカッションでは生徒が教授役をして進めていくもので、自分が当番の日はパワーポイントやレジュメを用意し、その週のトピックと論文についてまとめて授業の最初に発表します。それからはその日のディベートのオーガナイザーとして皆に質問をしたり、進行、結論付けなどを行います。テストは中間と期末の 2 回で、ほかに大きなエッセイ提出が 2 回ありました。

⑦ クラブ、課外活動、ボランティア活動

特に何も行いませんでしたが、メンターシッププログラムというものは利用していました。大学の先輩とペアになり月に 1 度イベントに参加したり、カフェに行って話したりして大学生活をスムーズに行えるようサポートしてくれる制度です。インターナショナル生にむけてのシステムなので、相手の方も異文化に理解があり優しい方が多かったように思います。イベントの中には PEI 観光、アップルピッキング、NY 旅行などがありました。すべて強制ではなく行きたいものに申込制で参加する形なので、勉強との兼ね合いもつけやすかったです。特に PEI は自分でツアーに申し込んで行くよりも安価で、大学の方も一緒なので安心していくことが出来たので利用してよかったなと思います。

⑧ 現地での住まい（語学研修期間、正規科目履修期間）について

ホームステイはエージェンシーで決定されるので選んではいませんが、事前にペットや子供の有無などを指定することはできました。部屋はベースメントを含め 3 階建ての一軒家で、セントラルヒーティング、バスルーム 2 つ、個室が 4 部屋とリビング、ダイニング、キッチンがありました。食事内容はピザやラザニアが主でした。私のホストマザーは全く家事をしない方だったのでいつも買ったものを食べていましたが、自炊したいと思ったのでその旨を伝えると快諾して下さり、必要な食材をメモに書いて渡すと次の日にはすべて買ってきて下さいました。掃除は週に 2 回ホームキーパーの方が来て掃除して下さいだったので、自分で頻繁にする必要はありませんでした。通学距離はバスと電車で片道 40 分ほどでした。トロントの TTC には時刻表がなく、バスも電車も気まぐれでくるので慣れるまで違和感がありましたが、慣れてくるとそんなのんびりした雰囲気も好きになりました。寮は、大学にそれぞれ生徒運営のホームページがあるので、それを参考にしながら選びました。生徒運営なのでそれぞれの寮の雰囲気がよく分かり、とても参考になりました。私はビゲローという寮に住んでいたのですが、リフォームしたばかりでとてもきれいだったので満足していました。ビゲローの部屋タイプはエンスイートというタイプで、1 つの大きな部屋のなかで真ん中にバスルームを挟み二つの個人部屋があるというものでした。ルームメイトは現地のカナディアン女の子でしたが、ダブルルームよりはパーソナルスペ

ースがありますし、かといってシングルのように完全に 1 人なわけではないので適度な距離感で交流を持てるところがよかったなと思います。食事は 3 食食堂のようなところでとるのですが、すべてバイキング形式で自分の好きなものだけをとることが出来ます。サラダバーなどもありほかの大学に比べてとても良い食堂だと現地の友達は言っていましたが、味付けで口に合わないものも多く、私は親に醤油などの調味料やふりかけ、みそ汁など日本食を 2 回ほど送ってもらいました。周りに日本食スーパーもないので、インターナショナル生は自国から保存食を持ってきている人も多かったです。通学距離は、大学の中に寮があるので、授業の直前まで部屋にいても十分間に合います。

⑨ 長期休暇の過ごし方

長期休暇は夏に 1 か月あったのですが、ほぼ旅行や観光をして過ごしていました。住むところがなかったのが B&B などを借りるかも迷ったのですが、引っ越しの手間なども考え悩んでいたところ、ホストマザーが家にいなさいと行ってくださったので、そのままホスト宅に荷物を置かせて頂いたまま旅行したりトロントに帰って来たりしていました。旅行はバンクーバー、バンフ、シアトル、ナイアガラに行きました。バンフにはカナディアンロッキーという世界遺産があり有名な避暑地になっているので、暑い夏も快適に過ごすことができました。日本では見たこともないような野生のグズグズやピカなども生で見ることが出来、とても良い思い出になりました。留学期間中は交通費もだいぶ安く済ませることが出来るので、できるだけたくさん場所に行こうと思っていたので、いろいろなところに行くことが出来満足でした。旅行の予約については、日本を出国する前からすでに手続きしていました。また、長期休暇の間に両親と高校時代の友人らがトロントに遊びに来てくれたので、皆を連れてトロントやナイアガラの観光案内もしました。日本の友人と異国の地で再会し旅行するという経験をすることが出来、とても楽しかったです。

⑩ 留学期間中の就職活動の取り組み

就活サイトなどは時々見ていました。また、出国前に大学のキャリアセンターで個人面談を申し込み、留学中から帰国にかけての就活準備に関する相談などもしました。出国前は留学中にもっといろいろと準備しようと思っていましたが、実際行ってみると毎週の課題などに追われ思うように進めることはできませんでした。唯一努力したのは、秋にあるボストンキャリアフォーラムというイベントに参加したことです。日本の有名企業がボストンに集まり面接や説明会を行うイベントなのですが、とても優秀な方がたくさん参加されており大きな刺激になりました。これに参加するにあたり、エントリーシートや企業ごとにある設問などに答えられようするために自己分析や企業研究を行いました。これにはものすごく時間がかかりましたし、応募締め切りがちょうど中間テストの期間と重なっていたので睡眠時間を削るしかなく、とても大変でした。私は就活に関する知識が全くなかったのですが、この時からすこしずつ就活を始めていてよかったなと感

じています。また、このときに最終面接で圧迫面接を人生で初めて経験し、とても辛かったのですが本当に良い経験になったなと思っています。インターネットの情報だけでは判断しきれないことが就活にはたくさんあるので、実際に自分で足を運び、目で見て感じる機会を1度持ててよかったです。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

留学中に最も思い出に残っていることは、友人と英語でコミュニケーションし、関係を築きあげることができたなと感じたことです。生まれ育った環境や文化、言語が全く違う相手と、英語を通していろいろな話をし、お互いのことを尊重しながら日本にいる友人と同じように気を許せるようになったときは、英語というツールを持っているとこんな経験もすることが出来るのかと感動した記憶があります。また、バンクーバー、バンフ、ニューヨーク、モントリオール、ナイアガラ、シアトル、PEI、トロント、サックビル、ボストンなど、いろいろな場所に旅行することができたのがすごく楽しかったです。日本にいて1年間でこんなにたくさんの場所に行くことは難しいと思うので、この機会に行っておいて良かったなと思います。

② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

一番はやはり大学での勉強です。絶対に単位を取って帰らなければという思いが強くあったので、大学の授業が始まってからは毎日たくさん勉強しました。スピードも量も日本でこなしていたものとは比べ物にならないほど大変だったので、ずっと図書館で勉強していました。先生が話すスピードが速いときは録音して後で何度も繰り返し聞き、わからないところがあるときはオフィスアワーへ質問に行っていました。もう1つ辛かったことは、トロントのように多文化社会ではない地域ではまだまだ人種差別があるということを経験したことです。私の隣にチャイニーズカナディアンとネイティブカナディアンがダブルルームで住んでいたのですが、アジア人が嫌いという理由でネイティブの子が1か月ほどでルームメイトを解消して出て行ってしまったことがありました。そのときは人種差別というものがまだまだ残っているということを身に染みて感じ、とても悲しかったです。

III. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

良かった点は、生活がほぼ大学内で完結できることです。必要なものはすべて大学の敷地内にあるので、普段は外に行く必要はなく、とても便利でした。悪かった点は、ものすごく田舎であることと、異文化理解がトロントなどの大都市に比べて進んでいないところです。周りにはスーパーなどしかなく、生活雑貨以外の買い物する場所はバスで往復30

ドル・往復 2 時間弱かかりますし、冬はものすごく寒いです。また、田舎であるがゆえに外国人がものすごく少なく、人種差別などもあるので、ほかの地域に比べるとネイティブのコミュニティーに入るのは少し苦労しました。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

パソコンは日本語入力が必要だったので持参しました。役に立ったものはヒートテックとメイク落としです。トロントにもユニクロが出来たので購入可能ですが、やはり日本の倍ほどの値段がするので、持って行ってよかったと思います。また、なぜかメイク落としや化粧水の種類がカナダは異常に少ないので、日本から持って行ってよかったなと思います。

③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

リスニング力が一番向上しました。やはり毎日いろんなアクセントの英語を聞き続けるので、どんな英語でも大体聞き取れるようになりました。また、スピーキングについても、あまり考えずに口から言葉がでるようになり、留学前に感じていた英語に対する緊張感のようなものが薄くなり、日本語を話すときと同じようにリラックスして話せるようになりました。また、語学力ではないですが、コミュニケーション能力が向上したと思います。もともと人と話すのは好きで得意だと思っていたのですが、留学中は初対面の方と何か作業をしたり遊んだりすることが格段に増えたので、そのような短期間に人と距離を縮めたりお付き合いすることに対してより抵抗がなくなったなと感じています。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

留学というチャンスを柔軟な学生のうちにつかめることは本当に幸せなことだと思います。そこで得た経験や繋がりはず自分の将来において大きな糧となるからです。行って後悔することは絶対にならないと思うので、少しでも興味のある方はぜひ挑戦してみてください！

IV. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

就活中なのですが、今はインターンシップや説明会などでいろいろな企業を見ているところです。まだ絞り込んではいないのですが、海外との関わりの強い企業にはやはり興味があるので、これから自分に合う業界を見つけていこうと思います。

V. 写真



夏に行ったカナディアンロッキーです。この風景を見たときは本当に感動しました。私はプライベートツアーガイドを申し込み、車で一日ガイドさんに案内して頂きました。公共の移動手段がほぼないので、広いカナダでカナディアンロッキーを効率よく回るには、ツアーやガイドさんにお願いする方がいいと思います。



ナイアガラの滝

トロントからカジノバスを利用すれば8ドルほどで行くことができます。夏はとても暑いですが晴れていると2本ほど虹がかかっているところも見ることが出来ますし、クルージングで濡れてもすぐに乾くので、とておもおすすめです。6回ほど行きました。



サックビルの近くにある海岸です。大学の新生オリエンテーションで行きました。ここでキャンプファイアーをしてスモアというお菓子を食べました。